

グループホーム まふえー

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		各入居者の生きていく力、希望、楽しみ等が地域や日常生活の中で十分に発揮でき、また、地域の一員として暮らしていける様、支援している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		管理者 職員は、定期のミーティングで理念に基づいたサービスが提供出来ているか確認している。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		地域との行事参加や交流、小学校・中学校からの見学、体験学習等を通じて理解頂いている。また、運営推進会議、家族の来所時においても報告している。定期的に「まふえーたより」の配布。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		近隣より魚や野菜等の差し入れを頂いたり、行事等のお誘いを受けている。GH主体のイベントにおいて地域へ招待等行っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		保育園の運動会へ参加(見学)、地域行事の参加、物品の共有、小学校の社会科見学、中学校の体験学習、町内会参加等、地域交流・地域貢献に努めている。

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高齢者の介護相談窓口の設置。隔週土曜日の移動パン屋さんの販売スペースの提供、AEDの設置等を行っている。		AEDを設置しているだけでなく、今後は、まふえー主体により講習会等を行ってきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価において、各々の立場、役割に応じて、実施状況・経過の分析、評価を行い、改善点を見出している。また、評価を受け、改善すべき点は、話し合い、早期の対応に努める。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、各方面の参加により活発な意見・提案を受け、サービス・質の向上に反映させている。外部評価の実施において事前に会議の場で連絡し、報告する旨を周知させている。		入居者家族の方の運営推進会議への参加の頻度が増すよう土曜日等にも実施出来るよう行政(地域包括支援センター)と調整を行ってきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営・業務上の疑問があった場合、市役所及び厚生労働省に問い合わせを行っている。また、区役所の各課、担当にも日々の相談を行っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護及び成年後見制度についての勉強会を行っており、いつでも関係書類を閲覧出来るようにしている。窓口としては、管理者・ケアマネが対応している(入居前の面接時、契約時、その他、必要時)。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル及び虐待の事例を元に勉強会を行っている。職員間においても意識し合いながら業務を行っている。		

グループホーム まふえー

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書・運営規定、本人及び家族に説明を行い、同意を得ている。また、フェースシート、情報提供書等を用いて、本人・家族・ワーカー・職員間で入居前に話し合いを行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関先に意見箱を設置している。入居者 職員間において信頼関係が構築していける様、日々関係作りを行っている。日常の中で、思っていること、感じていること等を聞き出し、いつもと変化はないか把握するようにしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>GHの事、本人の様子については、来所時、たより、電話連絡等により報告している。金銭管理・職員の異動については、個別に説明・報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>行政連絡先を重要事項説明書に記載し説明を行っている。現場とは別に法人代表の連絡先を伝え、職員に話しにくい内容でも直接意見を言えるような対応を取っている。現状としては、来所時等に直接意見を頂ける環境にあり早期の対応に繋がっている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のミーティングにおいて職員の意見・提案が主体となって進んでいくよう会議運営を行っている。日常の中で提案・意見等は、申し送り・申し送りノートで運営者及び管理者に伝わるようにしている。早期に急ぐ時等は、直接、管理者を通し行動に移せるようにしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に合わせて、すぐ調整出来るよう職員間の連携を日頃より取り合っている。前もって予測が付く場合は、余裕を持った勤務にしている。常勤換算5.0以上を実施している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者の担当は、定期的に異動させている。急な担当の変更に入居者・家族が戸惑わない様、配慮している。職員の離職時は、いつでも担当出来る様、情報の共有に努めている。</p>	

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員採用について、年齢、性別では行っていない。現職員についてもお互いを尊重し合い助け合える力を持ち合わせている為、働きやすく、円滑な現場運営となっている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権教育及び啓発活動の資料を用い、勉強会を行っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設外研修や職員スキルアップの為、資格取得制度を用い、職員育成に取り組んでいる。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>定期的に介護事業者懇親会への参加をして同業者の交流、情報交換に努めている。また、他施設の行事参加や自施設の行事に招待しており、お互いにより質の高いものが出来るよう、切磋琢磨している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>サービス残業を完全に行わず、残業自体の廃止も徹底している(緊急時を除く)。育児休業の実施、子育ての支援も行っている。職員間の仕事外での交流や慰安旅行などにより、職員間の連携・信頼関係の維持に繋がっている。</p>		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	当社独自の資格取得制度があり、職員が各々レベルアップでき向上心を持てる職場作りを行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問、説明から入居開始に至るまで実際に生活されている方の例を挙げ、不安の軽減、問題の解消に努めている。また、要望等に関しては可能な限り対応している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問・面談時にフェースシート・情報提供等も含めGH生活に照らし合わせながら一つ一つ解決し、ご理解を得ている。また、いつでも連絡を受けることができ、早期に対応出来る職員の連携も取っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談・面談等において、相談内容、状況に応じてGHに適用しているのか？本人・家族にとってどのような生活が望ましいのか？等話し合い、実際に必要とされるサービスを受けられる様、支援している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望者には、体験入居・家族宿泊を実施している。また、馴染みのある物(布団・家具・食器等)を取り入れ、居心地の良い環境になる様、努めている。置かベッドを選択でき、GHで設置するようにしている。職員においては、フェースシートや情報等により安心して接してもらえる様、対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各々の入居者が生活していく場として、個人の能力や可能性を大事にして日常の場面で失敗や成功を共に感じている。出来ない部分においては、援助を行い、共に達成感を感じている。本人の得意なことや楽しみを引き出し充実した生活が送れるよう支援している。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、面会・行事・たより・電話連絡などにより情報の共有を行っている。家族の方と一緒に支えていける様、取り組んでいる。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事のお誘い、外泊、外出の支援、本人 家族の電話、連絡の代行など入居前と変わりのない関係が築いていける様、支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅への外泊、他施設(配偶者入所中)への面会、馴染みの場所へ出掛けたりしている。GHに入所してからの馴染みの関係も続いていけるよう支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が間に入り、入居者間を取り持つほか、仲の良い入居者間においても変化がないか見守りや時に間に入りたりして、状況の把握に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も連絡を取ったり、来所される方もいる。退所後の介護相談も受け付けており、関係性を持ち続けている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前に本人より情報・意向を受け、出来るだけ望まれた生活が反映・実現していける様、取り組んでいる。課題が多い場合にも本人の思いに近づける様、検討している。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問して住環境・生活歴、馴染みの暮らし、習慣等の情報を貰っている。また、介護保険サービスや病院・施設を利用されていた所より、情報の提供を受けている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常生活状況・心身の状況等を介護記録に記載し、常に入居者の情報、状態を把握出来るようにしている。また、申し送りノートにも記載し確認印を押してもらう様にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各々が状況や場面においてケアや課題、アイデア等の意見を出せて吸い上げられるようにしている。定期的また臨時的に話し合い介護計画に反映させている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	当初の計画通りにいかなかった場合等は、関係機関、家族、本人、職員等で早期に話し合い、現状にあったサービスが行えるよう対応している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて、日頃の状況・経過などを職員が記録するようにして見直しの時にも役立てている。新しく試したことなども記載して次の介護計画に活かす様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	出来るだけ、本人・家族より希望や要望があった時はその時(希望日含む)に実現していけるような体制を取っている。例：買い物、食べたいもの、ドライブ等		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の消防団との合同消防・非難訓練の実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	個々に必要なサービスが満足に受けられるよう他事業者・ケアマネジャー・包括支援センター等と話し合い、活用方法を検討している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	定期的に地域包括支援センターの職員の方を含め、運営推進会議を開催している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の在宅総合診療を実施しているほか、希望される医療機関との連携。症状に応じ各診療科への受診支援などを行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期往診にて認知症の症状・経過の報告している。状態に応じてDrの治療・薬の処方等受けている。その他、著しい変化が見られる際は、早期に報告し必要な治療を受けている。また、往診医は、GH往診経験の多い医師に依頼している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は、入居者の状態を把握出来る様、職員は入居者の状態変化に応じて報告している。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は、主治医と早期の退院に向けての相談を行っている。退院時の状態を把握し、退院の目途が分かれば調整しながら復帰の準備を行う。入院時においては、職員が定期的に面会、洗濯物の交換を継続していきながら、いつでも安心して戻れるよう支援している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人・家族・かかりつけ医・職員にて終末期における生活の場、医療、ケアを話し合う機会を設け、対応・意識の疎通を一律にさせる。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>職員が「出来ること」「出来ないこと」の部分を明確にして家族に説明している。救急搬送、看取りのタイミングを事前に話し合い決めておくようになっている。入居者の状態の経過は、定期的、状態に応じて、かかりつけ医、家族へ連絡し連携を取っている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替え時は、全体的な情報の提供や移住の不安の解消等、安心して生活が送れるよう支援している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人の尊厳に十分配慮して関わりを持っている。個人情報の漏洩防止、言葉掛け、接遇等の勉強会も行い、入居者の方には、安心してコミュニケーションが取れるよう徹底している。</p>		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	日常として個人の決定・選択出来るよう、場面設定であったり個々に合った関わりを職員が心掛けて接している。		日々において本人の要望や楽しみ等を引き出し、実現出来るよう職員で連携している。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活を最優先にして、1日1日の過ごし方を天候や気分、調子などを踏まえて決めてもらう。入居者によっては、選択肢、声掛けのタイミング、アプローチ方法に工夫して対応したりもする。基本的には、決定の場を多く持てるよう対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	おしゃれの機会を多く持てるよう外出・行事を増やしたり、鏡を見る意識付けを行っている。理容・美容は、行き着けの場所がある場合は定期的にいけるようにしている。外出等が困難な方には、理容師の免許を持っている職員により、入居者と相談しながらおしゃれを楽しめている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好き嫌い等の食材は、違うものに変更したり調理に工夫しながら栄養バランスがありつつの食事を楽しんでもらっている。個々の力により調理・盛り付け・配膳・引き膳・台拭き・お茶入れ等を一緒に行っている。また、食材は、地元漁港・農家を優先して新鮮で安全な食事を提供している。		入居者の方と直接、新鮮な食材を仕入れたり、収穫したものをすぐに食事として提供することも楽しみとなっている。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙・おやつ等、医療的に問題のない場合は、基本的に楽しめるようにしている。おやつは、お店に行ったり、バイキング形式にしたり、一緒に作ったりして飽きないように変化させている。喫煙場所は、防火上指定している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートにて排泄の頻度・パターンを把握しており、個々の排泄の安定、排泄の失敗の減少、排泄の自立等を目指している。		オムツ RHパンツ ショーツへ移行していけるよう、時間帯・介護力も含め、本人が履き心地の良さやトイレへの安心と繋がっていけるよう対応している。

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	GHでの入浴時間や順番が、自然と入居者間の中で定着している。その他、季節・個人・個人の希望・状況に応じて入浴を実施している。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前の情報(習慣)や日常生活上の体調により職員が声掛けして休息してもらう場合もあるが、基本的には、入居者始動で1日の時間が流れている。不眠症の方においては、Drとの連携により安眠出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月のプログラムとして、ドライブ・外食・買い物・行事・おやつ会を催している。また、希望やタイミング等に応じて楽しめる場面を作っている。その他、個人の特性や役割が継続していける様、支援している。		お酒類を嗜まれる方があり、また、アルコールに制限がある方もいて、お互いが気兼ねなく時間を共有出来るよう対応している。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の能力に応じて、お金の管理・使用方法を分けている。定期的及び希望時に買い物に出掛ける機会を設けている。買い物は、必要時介助・支援を行う。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	GHは、海と山が両方見渡せる所にある為、漁港に魚を見にいたり山の方に畑や景色を見に行っている。また、小売店も近くにある為、いつでも希望によってすぐに足を運ばせれる。その他、必要に応じて思い立った時に外出出来るようにしている。		基本的に毎日、外出や散歩などに出掛けており、外への意識付けが出来ている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	野球観戦・漁港・海岸・高級レストランなど足を運びにくい場所への外出支援を行っている。また、1、2ヶ月に1度は、季節を感じれる所へ出掛けている。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の電話や手紙の要望、能力に応じて、出来ない部分の支援を行い、伝達手段をフルに活用している。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者周囲の方の訪問があった際は、職員より積極的に声を掛け、気兼ねなく話せる関係となるよう心掛け手ている。接遇においても職員間で意識し合いながら居心地の良い環境作りを目指している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となるものの対象を理解、周知しており、継続して身体拘束のないケアを実践していけるよう勉強会を行っている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることでの弊害を理解しており、日常として圧迫感のない住環境や職員の関わりに・アプローチに柔軟性があり、内外の行き来が自由で地域の方のサポートもある為、安心・安全な生活が実現出来ている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通じて、所在の確認、健康状態の観察を定期的及び状況に応じて職員間で連携を取りながら把握に努めている。転倒の危険がある入居者もいる為、出来るだけフリーに動ける職員を確保している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状態を把握しながら注意の必要な物品等の配置を検討している。経過を見て行きながら安全に物品等を使用していける生活を維持している。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に起こりうるリスクを理解して情報の共有、知識の一律、勉強会、リスクマネジメント会議にて事故防止に努めている。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに添って急変や事故発生時の訓練、その他、消防からの実地指導、救命講習への参加、地域の講習を行っている。いつ、何時でも的確に行動が起こせるようにしている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な防災訓練を受け、さまざまな状況に対応出来るよう訓練している。地震・水害においても想定して非難確認している。また、地域の消防団の方と合同訓練行い協力体制の維持に努めている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時には、入居者に起こりうるリスクを説明、理解を得ている。リスクに対しての抑圧にならない様、家族、かかりつけ医、職員と相談して対応に努める。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の申し送りはもちろんのこと、どの職員が見ても体調変化が確認出来るように統計表を毎日及び変化時に記録し、グラフ化させている。また、状態により、看護師、かかりつけ医への連絡を徹底させている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認が確実に出来るよう服薬ボックス前に服薬表を常に掲示し確認出来るようにしている。服薬の内容に変化があった時は、申し送り及び申し送りノート、介護記録への記録、服薬ボックスへのセットを徹底させている。服薬は、飲み込むまで確認している。介助の程度は、個人の能力に応じて行う。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	統計表により排便の回数管理をしている。また、水分摂取量の徹底や適度の散歩など行い、便秘予防に努めている。経過は、毎週Drに報告している。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎週、歯科の往診を受けている。また毎食後、口腔ケアの声掛け・実施している。自力でのうがい等が困難な入居者には介助している。義歯の方は、夜間消毒剤にて洗浄している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算をし栄養バランスの良い食事を提供しているほか、安全・新鮮に重点を置き食事提供を行っている。水分確保に対しては、水分補給1回ごとに量を確認し、目標設定・実行している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員間で、資料を用いて勉強会を実施している。職員及び入居者において、手洗い+滅菌消毒、うがいを徹底している。また、面会、訪問された方にも消毒をお願いしている。汚物・吐物は、ビニール手袋で扱い消毒している。インフルエンザの予防接種は、毎年、全入居者・全職員受けている(身体状況確認の上)。		トイレ・洗面所各所に殺菌エアータオルの設置。入居者の方にも感染予防の意識付けが浸透している。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類は高温消毒、調理器具は、アルコール消毒している。。調理の際も手洗い・滅菌消毒の徹底をしている。食材管理については、農家・漁師・養鶏場などから直接仕入れを基本としており、安全で新鮮なものを提供している。冷蔵庫内においては、随時チェックして消費期限が近いものは、ホワイトボードに書き出している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、夜間以外施錠しないことを徹底しており、自由に立ち入りしやすいようにしている。建物周囲は、野菜畑・芝生・お花等に囲まれた環境で温かみがある。また、敷地が広い為、移動パン屋の設置場所としても開放している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはとても開放的で光も入り、明るく過ごしやすい。さまざまな用途のリビングテーブルには、季節感漂う草花等を飾っている。また、リビング周囲には、本棚や雑貨の飾り付けに、イベントの写真などなど。台所内も定期的に見直し、入居者の方も出入り扱いやすくしている。		

グループホーム まふえー

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で雑談を楽しめるようベンチなど設置している。ウッドデッキや玄関口では、お茶したり、日向ぼっこされたりしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の生活環境を参考に物の配置。必要に応じて、介護用ベッドか畳を選択することが出来る。クローゼット内は、広いスペースで多くの物を収納出来る。夜間は、転倒防止の為、足元に尾灯が点くようにしている。居室の入り口は、本人の好みの物であったり、分かりやすい物などを飾っている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、2～3時間置きに喚起している。また、リビングには、室温計を設置し、チェックしている。季節時には、加湿器やエアコンで調整している。また、同時に入居者の体調管理も徹底している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福岡市福祉まちづくり条例に適合した建物であり、スロープ・手すり・車椅子トイレなど、安全性のある生活の送りやすい建物である。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の出入り口やトイレには、目印を取り付け、間違いを少なくしている。その他、混乱・失敗を未然に防げるよう、個別に対応している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	GH周囲は、ウッドデッキ・芝生・野菜畑・花壇・散歩コースになっており、それぞれの場所を広く活用しているので生活の場も外に向けられている。		野菜畑は、年中を通して何かを収穫出来るくらいフルに活用していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム まふえー

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)